

# 2020年度第3四半期決算説明資料

2021年2月4日

川崎重工業株式会社



# 目次

## I. 2020年度第3四半期連結決算の概要

- 2020年度第3四半期決算実績 サマリー 3
- 2020年度第3四半期決算実績 セグメント別 4
- 前年同期比損益増減要因分析 5
- 前年同期比損益計算書の概要 6
- セグメント別決算実績/コロナウイルスの影響
  - 航空宇宙システム 7
  - エネルギー・環境プラント 8
  - 精密機械・ロボット 9
  - 船舶海洋 10
  - 車両 11
  - モーターサイクル&エンジン 12
- 貸借対照表の概要 13
- キャッシュ・フローの概要 14

## II. 2020年度業績見通し

- 連結受注高・売上高・利益見通し 15
- セグメント別通期業績見通し 16
- セグメント別税前ROIC等の推移 17
- 研究開発費・設備投資・期末従業員数 18

### <参考資料>

- ヒストリカル・データ 19
- 市場概況 20
- プロジェクトトピックス 22

# 第3四半期決算実績 サマリー

[単位：億円]

	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減
受注高	10,226	<b>9,140</b>	▲ 1,085
売上高	11,354	<b>10,324</b>	▲ 1,029
営業損益	309	<b>▲ 37</b>	▲ 347
経常損益	153	<b>▲ 0</b>	▲ 154
親会社株主に帰属する 四半期純損益	47	<b>▲ 139</b>	▲ 187

&lt;売上加重平均レート&gt;

ドル (¥/\$)	108.79	<b>104.99</b>
ユーロ (¥/EUR)	122.00	<b>122.66</b>

## 前年同期比

### • 受注

- エネルギー・環境プラント、車両を中心に減少

### • 売上

- 精密機械・ロボット等が増収となる一方で、航空宇宙システム等が減収となったことにより、全体では減収

### • 利益

- 営業損益は、モーターサイクル&エンジンの改善はあったものの、航空宇宙システムでの悪化等により減益
- 経常損益は、為替差損益の好転や民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金戻入益の計上はあったものの、営業損益の減益により減益
- 親会社株主に帰属する四半期純損益は、固定資産売却益の特別利益への計上はあったものの、経常利益の減益に加え、減損損失（坂出工場）の特別損失への計上や繰延税金資産の一部取崩しを行ったことにより減益

## (参考) 20年度3Q決算実績における影響外貨量

[単位：億外貨]

ドル	ユーロ
9.7	1.8

## 第3四半期決算実績 セグメント別

[単位：億円]

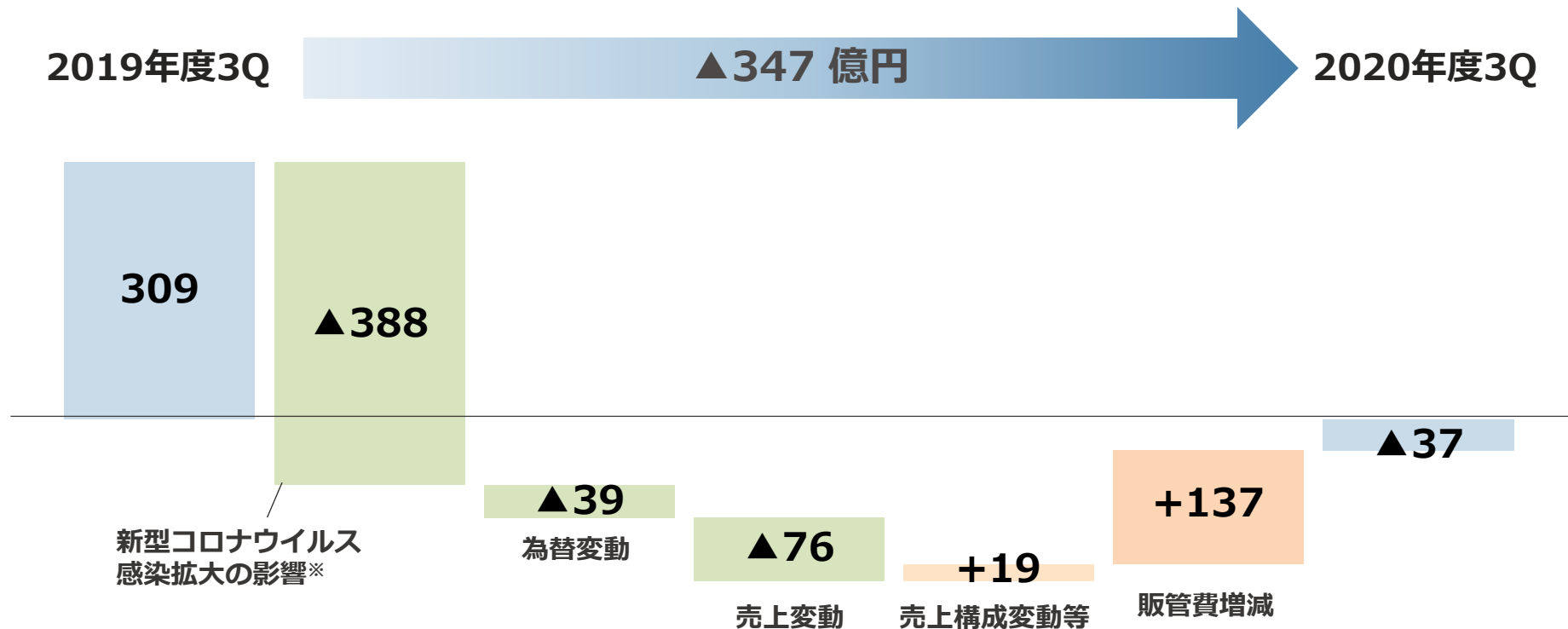
	受注高			売上高			営業損益		
	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減
航空宇宙システム	2,451	<b>2,247</b>	▲ 203	3,714	<b>2,779</b>	▲ 934	205	<b>▲ 192</b>	▲ 397
I補助機・環境プラント	1,843	<b>1,546</b>	▲ 297	1,623	<b>1,599</b>	▲ 24	130	<b>86</b>	▲ 43
精密機械・バルブ	1,571	<b>1,702</b>	+ 131	1,470	<b>1,542</b>	+ 71	52	<b>81</b>	+ 29
船舶海洋	316	<b>327</b>	+ 10	530	<b>557</b>	+ 27	▲ 7	<b>▲ 30</b>	▲ 22
車両	912	<b>492</b>	▲ 420	974	<b>1,015</b>	+ 40	▲ 31	<b>▲ 13</b>	+ 18
モーターサイクル&エンジン	2,301	<b>2,255</b>	▲ 46	2,301	<b>2,255</b>	▲ 46	▲ 45	<b>18</b>	+ 64
その他	828	<b>569</b>	▲ 259	739	<b>575</b>	▲ 163	20	<b>5</b>	▲ 15
調整額※	-	-	-	-	-	-	▲ 13	<b>7</b>	+ 20
合計	10,226	<b>9,140</b>	▲ 1,085	11,354	<b>10,324</b>	▲ 1,029	309	<b>▲ 37</b>	▲ 347

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

# 前年同期比損益増減要因分析

## ● 営業損益の変動

– 前年同期比 ▲ 347 億円 (2019年度3Q: 309億円 ⇒ 2020年度3Q: ▲37億円)



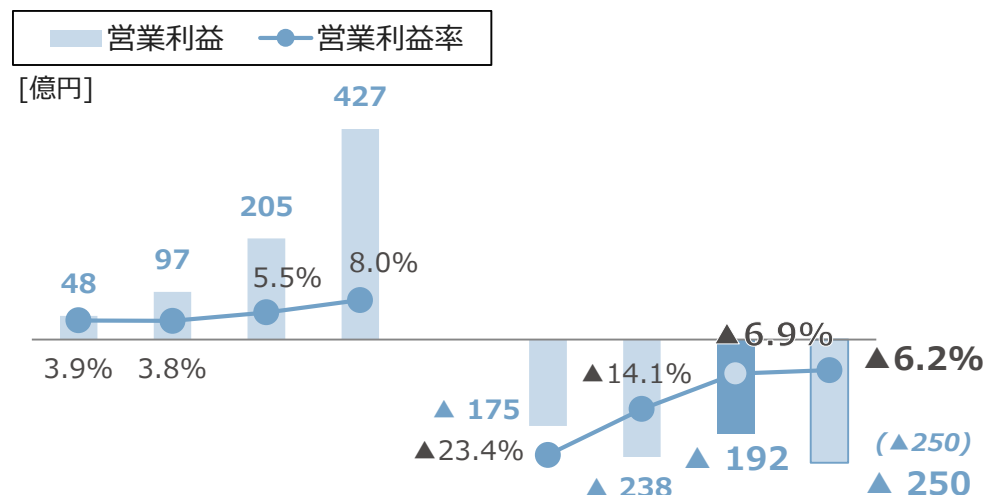
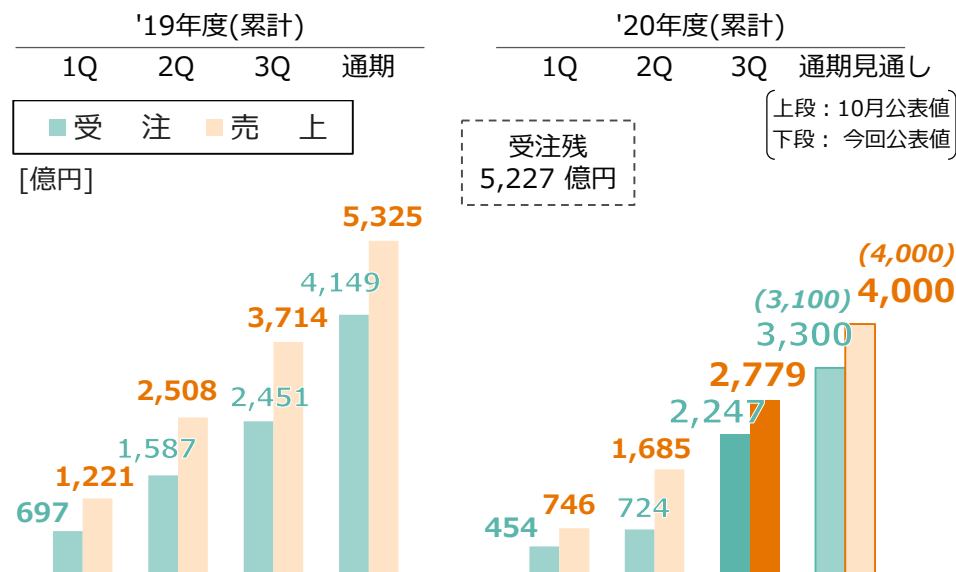
※ 当該数値は、2019年度3Q実績を平常値とした場合に、2020年度3Qにおいて新型コロナウイルス感染拡大に起因することが明確な損益変動を集計した概算値です

# 前年同期比損益計算書の概要

	[単位：億円]			
	前年同期比	( 2019年度3Q	⇒	2020年度3Q )
<b>営業損益</b>	<b>▲ 347</b>	<b>( 309</b>	<b>⇒</b>	<b>▲ 37 )</b>
・ 売上高	▲ 1,029	( 11,354	⇒	10,324 )
・ 売上原価	▲ 544	( 9,540	⇒	8,996 )
・ 販売費および一般管理費	▲ 137	( 1,503	⇒	1,366 )
うち給料および手当	▲ 6	( 413	⇒	407 )
うち研究開発費	▲ 66	( 363	⇒	297 )
<b>営業外損益</b>	<b>+ 192</b>	<b>( ▲ 156</b>	<b>⇒</b>	<b>36 )</b>
・ 金融収支(受取配当金を含む)	+ 2	( ▲ 20	⇒	▲ 17 )
・ 持分法による投資損益	+ 5	( 8	⇒	14 )
・ 為替差損益	+ 67	( ▲ 47	⇒	19 )
・ 民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金戻入金	+ 30	( -	⇒	30 )
・ 民間航空エンジンの運航上の問題に係る負担金	+ 76	( ▲ 76	⇒	- )
・ その他	+ 10	( ▲ 20	⇒	▲ 9 )
<b>特別損益</b>	<b>+ 19</b>	<b>( ▲ 11</b>	<b>⇒</b>	<b>8 )</b>
・ 固定資産売却益	+ 19	( 12	⇒	32 )
・ 関係会社株式売却益	+ 15	( -	⇒	15 )
・ 減損損失	▲ 39	( -	⇒	▲ 39 )
・ 事業撤退損	+ 23	( ▲ 23	⇒	- )

# 航空宇宙システム

主要製品：防衛航空機、民間航空機分担製造品、民間向けヘリコプタ、誘導機器・宇宙関連機器、航空機用エンジン、航空機用ギアボックス



## 2020年度第3四半期実績 (前年同期比)

- 受注： 注： 防衛省向けは増加したものの、民間航空機向け分担製造品や民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより減少
- 売上： 防衛省向けや民間航空機向け分担製造品、民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより減収
- 営業利益： 減収等により悪化

## 2020年度見通し (10月公表比)

- 受注： 防衛省向けの増加等により見通しを引き上げ
- 売上： 円高の影響や民間航空機向け分担製造品の減少はあるものの、民間航空エンジンの増加により全体では見通しを据え置き
- 営業利益： 同上

## 民間航空機向け分担製造品の売上機数

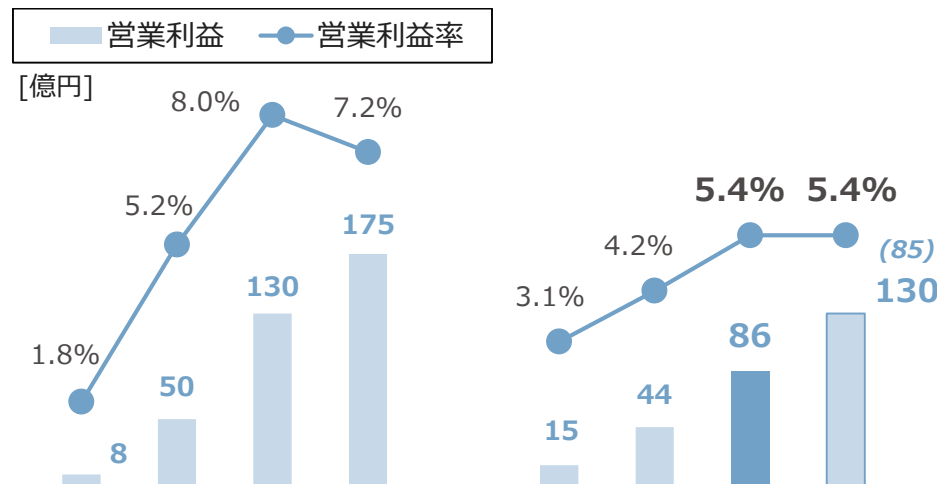
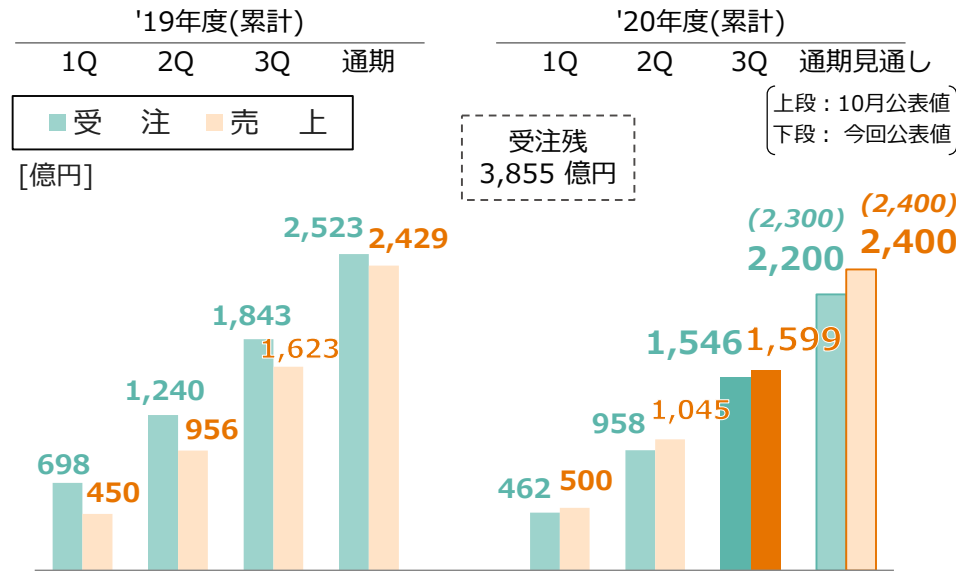
[単位:機]

	2019年度3Q	2020年度3Q
Boeing 767	25	21
Boeing 777	35	21
Boeing 777X	8	7
Boeing 787	124	69

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度見通し
税前ROIC	5.0%	8.0%	▲5.2%

# エネルギー・環境プラント

主要製品：産業用ガスタービン・コージェネレーション、発電用ガスエンジン、ディーゼル機関、蒸気タービン、空力機械、ボイラプラント、コンバインドサイクルパワープラント、産業プラント(セメント、肥料等)、LNGタンク、ごみ焼却プラント、搬送機械、トンネル掘削機、破碎機、船用ガスタービン・減速装置、船用レシプロエンジン、水力機械



## 2020年度第3四半期実績 (前年同期比)

- 受注：国内向けごみ処理施設の大規模改修工事やエネルギー事業での大口案件の受注があった前年同期に比べ減少
- 売上：国内向けごみ処理施設案件の工事量増加や国内向けガスタービンコンバインドサイクル発電プラントの売上増加はあったものの、海外向け化学プラントの売上があった前年同期に比べ減収
- 営業利益：減収に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による操業差損の発生等により減益

## 2020年度見通し (10月公表比)

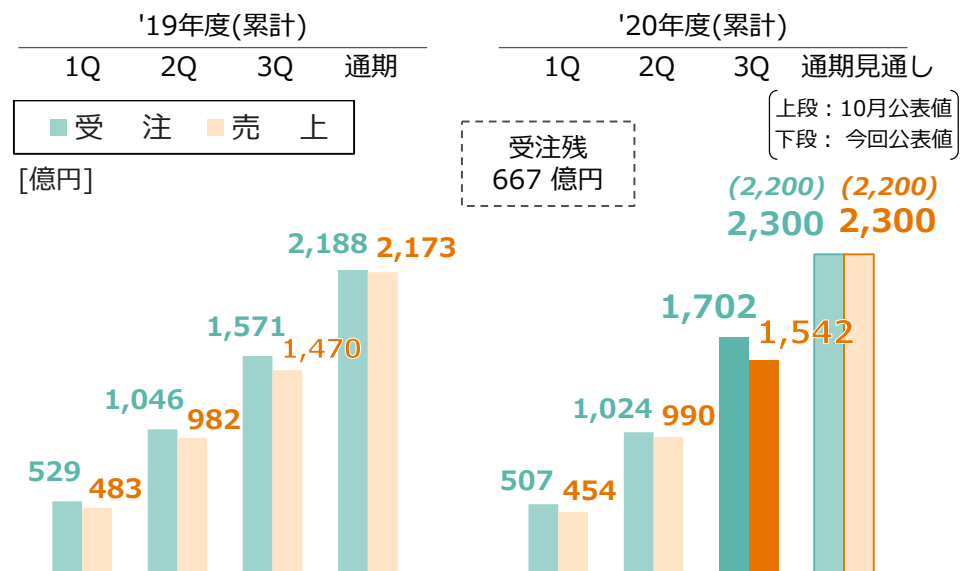
- 受注：新型コロナウイルス感染拡大の影響による案件の期ずれにより見通しを引き下げ
- 売上：大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 営業利益：一部案件における採算改善により見通しを引き上げ

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
税前ROIC	9.3%	10.4%	10.4%

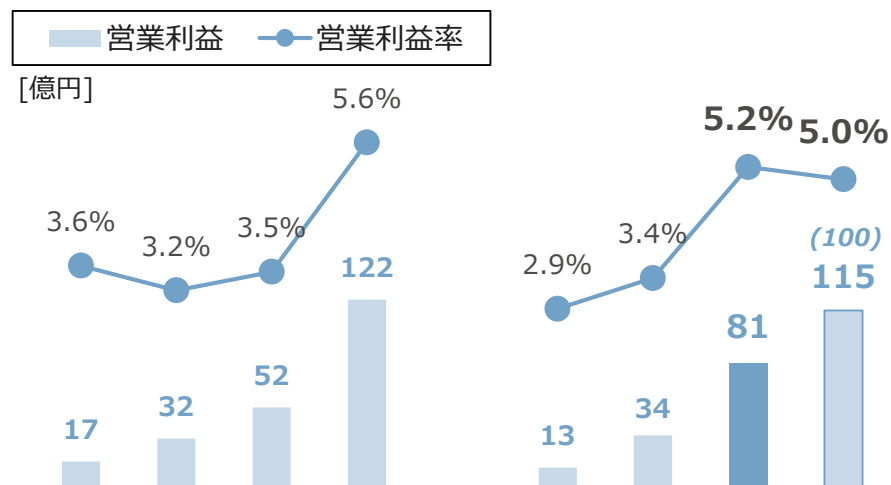


# 精密機械・ロボット

主要製品：建設機械用油圧機器、産業機械用油圧機器・装置、船用舵取機、船用各種甲板機械、産業用ロボット、医薬・医療ロボット



受注残  
667 億円



## 2020年度第3四半期実績 (前年同期比)

- 受注：建設機械市場向け油圧機器や半導体向け及び車体組立向けロボットの増加により増加
- 売上：同上
- 営業利益：増収により増益

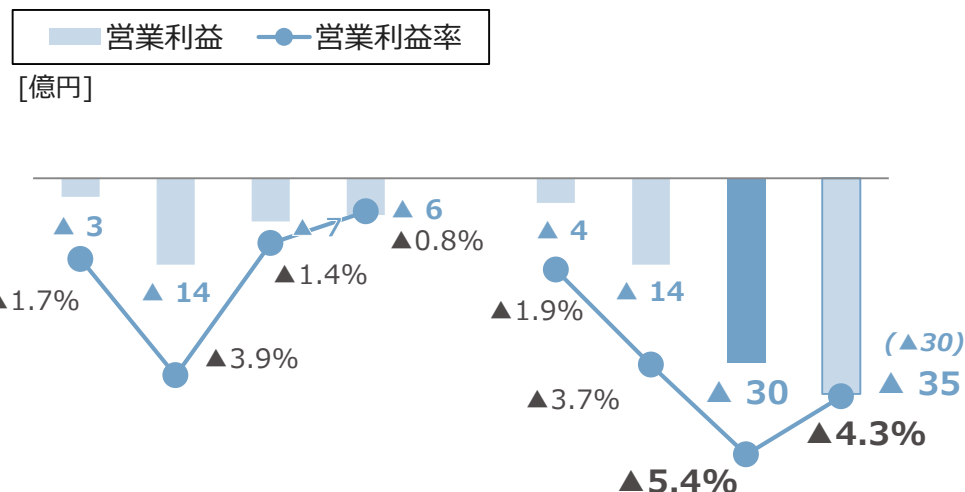
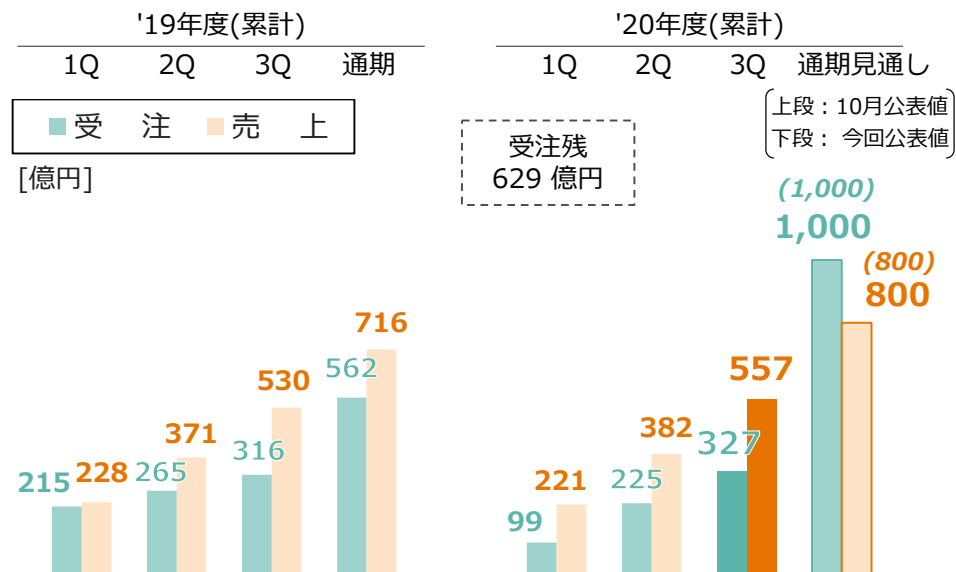
## 2020年度見通し (10月公表比)

- 受注：建設機械市場向け油圧機器の増加により見通しを引き上げ
- 売上：同上
- 営業利益：増収により見通しを引き上げ

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
税前ROIC	19.8%	8.8%	10.1%

# 船舶海洋

主要製品：LNG船、LPG船、ばら積み運搬船、潜水艦、ジェットフォイル



## 2020年度第3四半期実績 (前年同期比)

- 受注：前年同期並み
- 売上：新造船の工事量は前年同期並みだったものの、修繕船の売上増加等により増収
- 営業利益：増収があったものの、操業差損の発生等により悪化

## 2020年度見通し (10月公表比)

- 受注：大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 売上：同上
- 営業利益：円高の影響により見通しを引き下げ

## 新造船の受注・売上・受注残隻数

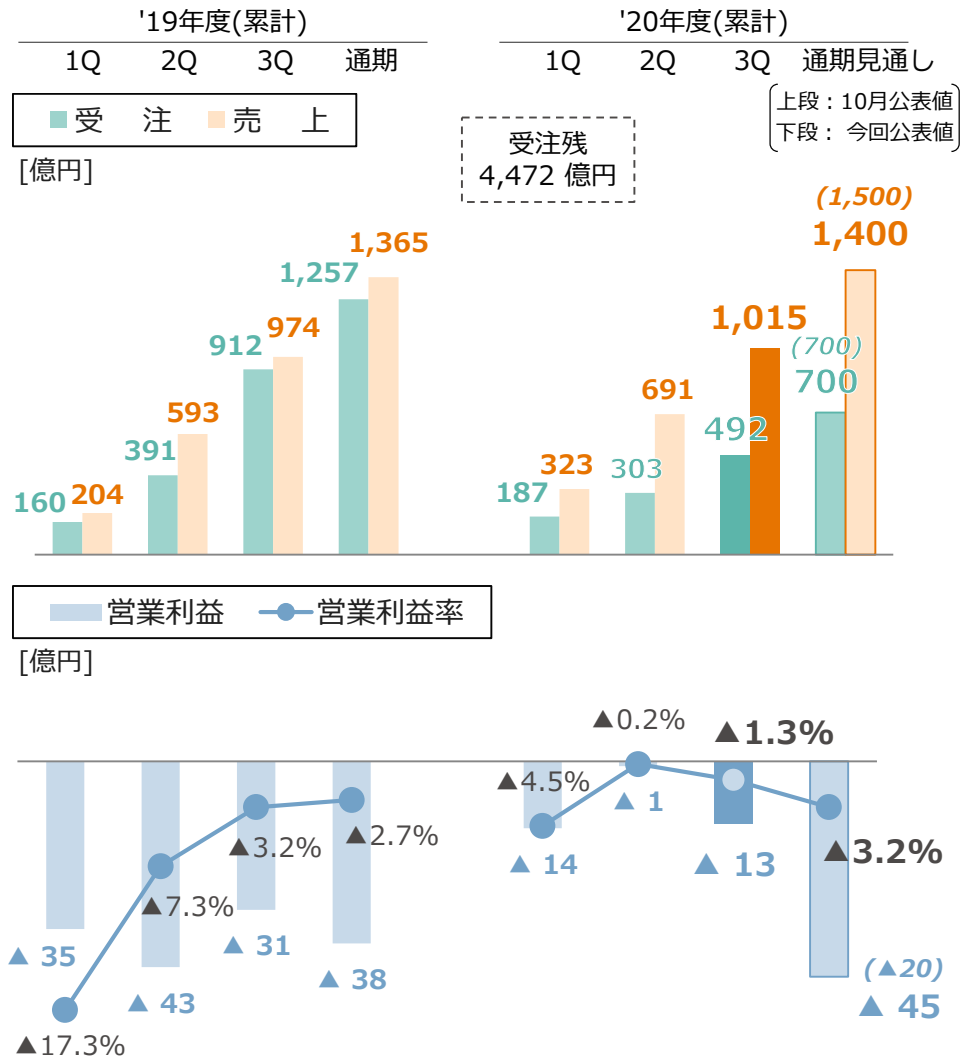
	受注		売上 <sup>※</sup>		受注残
	'19年度3Q	'20年度3Q	'19年度3Q	'20年度3Q	'20年度3Q
LNG船			2		
LPG船	2	2	6	5	6
潜水艦			2	2	2
その他			4	3	
合計	2	2	14	10	8

※売上は進行基準を含む

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
税前ROIC	3.2%	1.4%	▲7.0%

# 車 両

主要製品：各種電車（新幹線含む）、機関車、客車、台車



## 2020年度第3四半期実績（前年同期比）

- 受注：国内私鉄・公営鉄道向けの大口案件の受注があった前年同期に比べ減少
- 売上：米国向け車両が減少したものの、国内向け車両が増加したこと等により増収
- 営業利益：新型コロナウイルス感染拡大の影響等による海外案件の採算悪化はあったものの、増収により改善

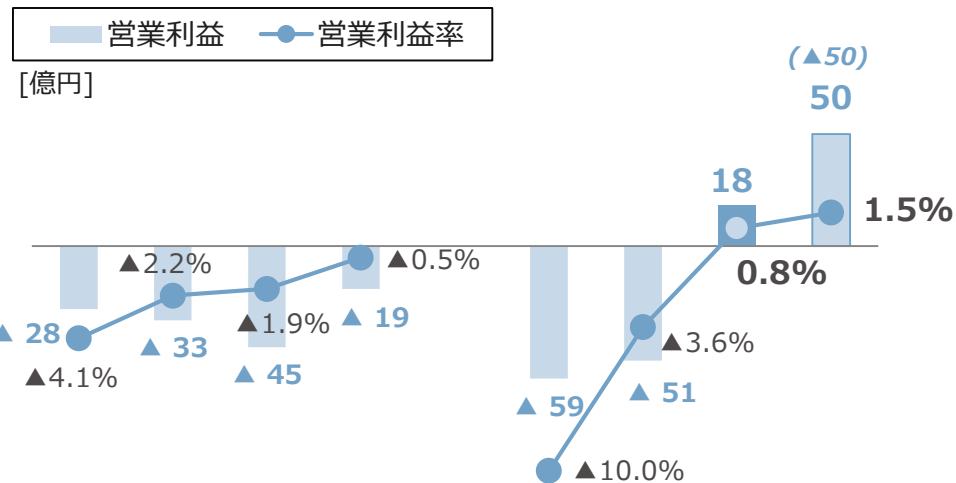
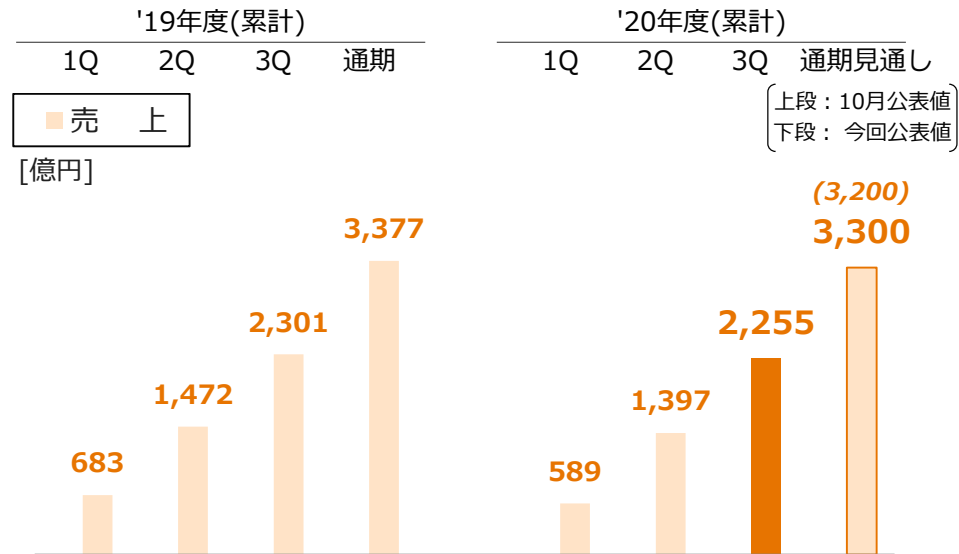
## 2020年度見通し（10月公表比）

- 受注：大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 売上：米国向け車両の減少により見通しを引き下げ
- 営業利益：新型コロナウイルス感染拡大の影響等による海外案件の採算悪化により見通しを引き下げ

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
税前ROIC	▲26.4%	▲7.2%	▲6.4%

# モーターサイクル&エンジン

主要製品：二輪車、多用途四輪車、四輪バギー車（ATV）、PWC、汎用エンジン



## 2020年度第3四半期実績（前年同期比）

- 売上：北米向け四輪車の増加はあったものの、新興国向け二輪車が大きく減少したことや、前年同期に比べ為替レートが円高で推移したこと等により減収
- 営業利益：減収があったものの、固定費の削減等により改善

## 2020年度見通し（10月公表比）

- 売上：汎用ガソリンエンジンの増加により見通しを引き上げ
- 営業利益：増収に加え、販売促進費の減少等により見通しを引き上げ

## 製品別売上（卸売）台数・金額

[単位:千台、億円]

	2019年度3Q		2020年度3Q	
	台数	金額	台数	金額
先進国二輪車	101	729	91	737
新興国二輪車	252	589	151	448
四輪車・PWC	51	637	58	724
汎用エンジン		346		346
合計	404	2,301	300	2,255

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
税前ROIC	8.4%	▲2.6%	4.4%

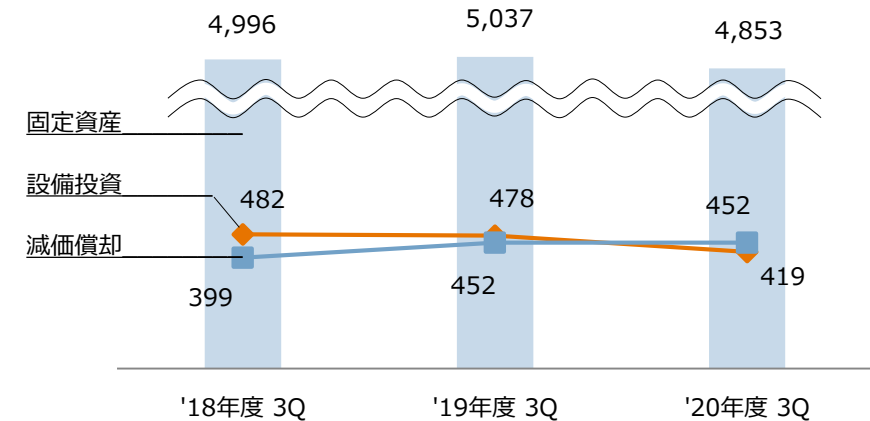
# 貸借対照表の概要

[単位：億円]

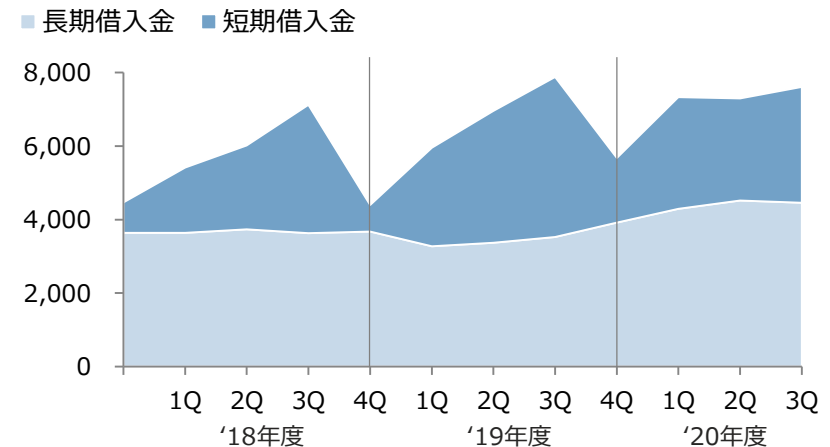
	2019年度末	2020年度3Q末	増減
現預金	1,061	1,373	+ 312
売掛債権	4,732	4,773	+ 41
棚卸資産	6,316	6,842	+ 525
有形・無形固定資産	5,039	4,853	▲ 185
その他資産	2,429	2,573	+ 144
<b>資産合計</b>	<b>19,578</b>	<b>20,416</b>	<b>+ 838</b>
買掛債務	3,716	3,339	▲ 377
借入債務	5,674	7,606	+ 1,931
前受金	1,486	1,351	▲ 134
その他負債	3,985	3,553	▲ 432
<b>負債合計</b>	<b>14,862</b>	<b>15,850</b>	<b>+ 987</b>
株主資本	4,855	4,707	▲ 147
その他純資産	▲ 139	▲ 141	▲ 1
<b>純資産合計</b>	<b>4,715</b>	<b>4,566</b>	<b>▲ 149</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>19,578</b>	<b>20,416</b>	<b>+ 838</b>
自己資本比率	23.2%	21.5%	
Net D/E レシオ	101.2%	141.6%	

- 総資産は、不測の事態に備えた手元資金の確保による現預金の増加や航空宇宙システムの棚卸資産の増加等により増加
- 負債は、買掛債務の減少等はあったものの、航空宇宙システムの借入債務が増加したこと等により全体として増加
- 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失等により減少

設備投資等の推移 (単位：億円)



有利子負債の推移 (単位：億円)



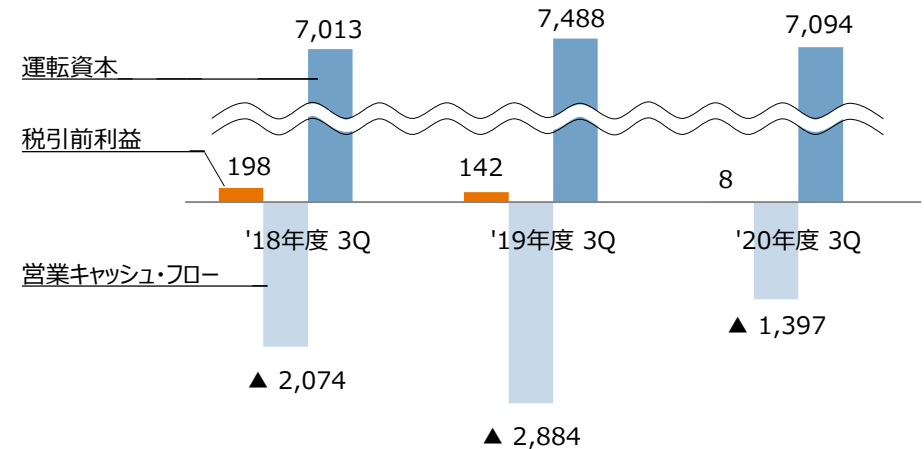
# キャッシュ・フローの概要

[単位：億円]

	2019年度 3Q	2020年度 3Q	増減
営業キャッシュ・フロー	▲ 2,884	▲ 1,397	+ 1,486
投資キャッシュ・フロー	▲ 462	▲ 224	+ 238
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 3,346	▲ 1,621	+ 1,724
財務キャッシュ・フロー	3,358	1,926	▲ 1,431

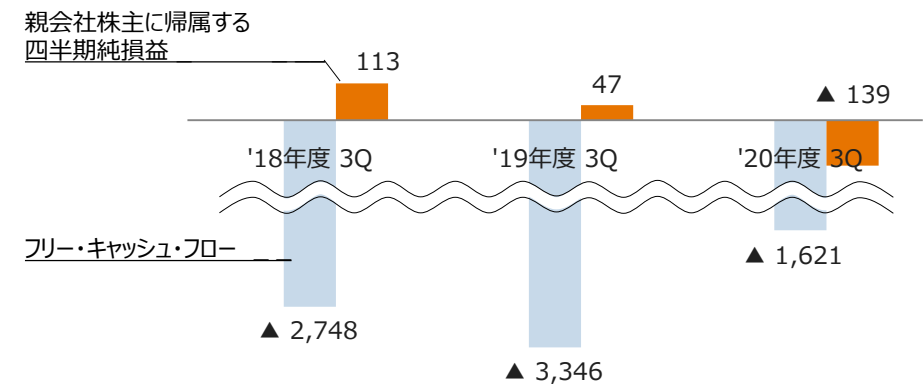
- 営業キャッシュ・フローは、航空宇宙システムにおける売掛債権入金時期の差異やモーターサイクル&エンジンにおける運転資本の減少等により改善
- 投資キャッシュ・フローは、固定資産売却や関係会社株式売却による収入等により改善
- この結果、フリー・キャッシュ・フローは前年同期比で改善

## 営業キャッシュ・フロー等の推移 (単位:億円)



## フリー・キャッシュ・フローと

### 親会社株主に帰属する四半期純損益の推移 (単位:億円)



# 連結受注高・売上高・利益見通し

[単位:億円]

	2019年度 実績	2020年度 見通し		増減	
		10月公表	今回公表	前年度比	10月公表比
受注高	15,135	13,400	<b>13,600</b>	▲ 1,535	+ 200
売上高	16,413	15,000	<b>15,000</b>	▲ 1,413	-
営業損益	620	▲ 200	<b>▲ 100</b>	▲ 720	+ 100
経常損益	404	▲ 250	<b>▲ 150</b>	▲ 554	+ 100
親会社株主に帰属する 当期純損益	186	▲ 270	<b>▲ 250</b>	▲ 436	+ 20
税前ROIC	4.2%	▲ 2.2%	<b>▲ 1.7%</b>	▲ 5.9%	+ 0.5%
ROE	4.0%	▲ 6.1%	<b>▲ 5.5%</b>	▲ 9.5%	+ 0.6%
配当 (1株当たり)	35円	0円	<b>0円</b>	▲ 35円	-

## 見通し修正の理由等

### • 受注

- エネルギー・環境プラントの減少等はあるものの、航空宇宙システムや精密機械・ロボット、モーターサイクル&エンジンの増加により全体では見通しを引き上げ

### • 売上

- 車両の減収等はあるものの、精密機械・ロボットやモーターサイクル&エンジンの増収により全体では見通しを据え置き

### • 利益

- 車両や船舶海洋の悪化等はあるものの、モーターサイクル&エンジンやエネルギー・環境プラント、精密機械・ロボットの改善により全体では見通しを引き上げ
- なお、親会社株式に帰属する当期純利益は、今後発生しうる追加的な費用を反映

## <実績/前提レート ※ >

ドル (¥/\$)	108.94	106.00	104.00
ユーロ (¥/EUR)	121.70	123.00	123.00

※ 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

## (参考)為替影響額1円の変動による影響額

[単位:億円]

	営業利益	経常利益
ドル	6.9	7.2
ユーロ	1.0	1.5

## セグメント別通期業績見通し

[単位:億円]

	受注高				売上高				営業損益			
	2019年度 実績	2020年度見通し			2019年度 実績	2020年度見通し			2019年度 実績	2020年度見通し		
		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)
航空宇宙システム	4,149	3,100	<b>3,300</b>	+ 200	5,325	4,000	<b>4,000</b>	-	427	▲ 250	<b>▲ 250</b>	-
ICT・環境プラント	2,523	2,300	<b>2,200</b>	▲ 100	2,429	2,400	<b>2,400</b>	-	175	85	<b>130</b>	+ 45
精密機械・舶用	2,188	2,200	<b>2,300</b>	+ 100	2,173	2,200	<b>2,300</b>	+ 100	122	100	<b>115</b>	+ 15
船舶海洋	562	1,000	<b>1,000</b>	-	716	800	<b>800</b>	-	▲ 6	▲ 30	<b>▲ 35</b>	▲ 5
車両	1,257	700	<b>700</b>	-	1,365	1,500	<b>1,400</b>	▲ 100	▲ 38	▲ 20	<b>▲ 45</b>	▲ 25
モーターサイクル&エンジン	3,377	3,200	<b>3,300</b>	+ 100	3,377	3,200	<b>3,300</b>	+ 100	▲ 19	▲ 50	<b>50</b>	+ 100
その他	1,075	900	<b>800</b>	▲ 100	1,024	900	<b>800</b>	▲ 100	12	10	<b>10</b>	-
調整額※	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 53	▲ 45	<b>▲ 75</b>	▲ 30
合計	15,135	13,400	<b>13,600</b>	+ 200	16,413	15,000	<b>15,000</b>	-	620	▲ 200	<b>▲ 100</b>	+ 100

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます



## セグメント別税前ROIC等の推移

	税前ROIC ((税前利益+支払利息)/投下資本)				営業利益率 (営業利益/売上高)				総資産回転率(倍) (売上高/総資産)			
	2019年度 実績	2020年度見通し			2019年度 実績	2020年度見通し			2019年度 実績	2020年度見通し		
		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)		10月公表	今回公表	増減 (10月公表比)
航空宇宙システム	8.0%	▲4.8%	▲5.2%	▲ 0.4%	8.0%	▲6.2%	▲6.2%	-	0.71	0.50	0.51	+ 0.01
IT・環境プラント	10.4%	8.6%	10.4%	+ 1.8%	7.2%	3.5%	5.4%	+ 1.9%	0.77	0.76	0.74	▲ 0.02
精密機械・舶用	8.8%	7.6%	10.1%	+ 2.5%	5.6%	4.5%	5.0%	+ 0.5%	1.06	1.07	1.15	+ 0.08
船舶海洋	1.4%	▲6.9%	▲7.0%	▲ 0.1%	▲0.8%	▲3.7%	▲4.3%	▲ 0.6%	0.57	0.63	0.62	▲ 0.01
車両	▲7.2%	▲3.2%	▲6.4%	▲ 3.2%	▲2.7%	▲1.3%	▲3.2%	▲ 1.9%	0.64	0.79	0.73	▲ 0.06
モーターサイクル&エンジン	▲2.6%	▲5.3%	4.4%	+ 9.7%	▲0.5%	▲1.5%	1.5%	+ 3.0%	1.19	1.17	1.28	+ 0.11
合計	4.2%	▲2.2%	▲1.7%	+ 0.5%	3.7%	▲1.3%	▲0.6%	+ 0.7%	0.83	0.78	0.78	-

# 研究開発費・設備投資・期末従業員数

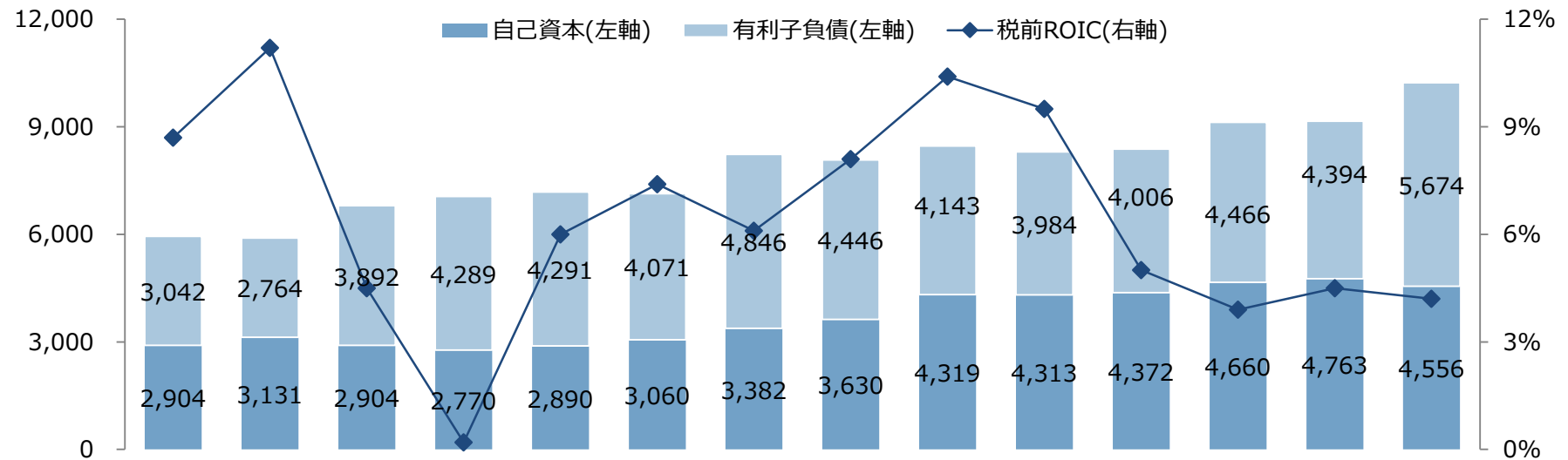
※2020年10月29日公表値からの変更はありません。

[単位:億円、人]

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減 (前年度比)
研究開発費	487	526	495	▲ 31
設備投資(※)	669	704	530	▲ 174
減価償却費(※)	590	612	615	+ 3
国内	26,171	26,616	26,800	+ 184
海外	9,520	9,716	9,700	▲ 16
期末従業員数	35,691	36,332	36,500	+ 168

※設備投資額は有形・無形固定資産の新規計上額、減価償却費は有形・無形固定資産の減価償却実施額

# ヒストリカルデータ



[単位: 億円]	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
税前ROIC	8.7%	11.2%	4.5%	0.2%	6.0%	7.4%	6.1%	8.1%	10.4%	9.4%	5.0%	3.9%	4.5%	4.2%
投下資本	5,946	5,896	6,797	7,059	7,182	7,132	8,228	8,076	8,463	8,297	8,379	9,127	9,158	10,230
売上高	14,386	15,010	13,385	11,734	12,269	13,037	12,888	13,854	14,861	15,410	15,188	15,742	15,947	16,413
営業利益	691	769	287	▲ 13	426	574	420	723	872	959	459	559	640	620
経常利益	490	639	387	142	491	636	393	606	842	932	366	432	378	404
親会社株主に帰属する 当期純利益※	297	351	117	▲ 108	259	233	308	386	516	460	262	289	274	186

※2014年度までは「当期純利益」

為替レート ¥/\$	117	115	101	93	86	79	82	99	109	118	108	110	110	108

# 市場概況（1/2）

## 航空宇宙システム

- 防衛省向けについては、厳しい防衛予算の中で概ね安定した需要が存在
- 民間航空機については、新型コロナウイルス感染拡大により世界の旅客需要が低迷しており、機体・エンジンともに需要が低下

## エネルギー・環境プラント

- 国内ではごみ焼却プラント等において老朽化設備の更新需要が継続
- 中長期的には、国内外の分散型電源需要および新興国におけるエネルギーインフラ整備需要は根強い
- 一方、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞や資源価格の不安定化により、顧客の短期的な設備投資判断が見直されるなど不透明な状況が継続

## 精密機械・ロボット

- 建設機械市場向け
  - 中国建設機械市場が新型コロナウイルス感染拡大の影響からいち早く回復しており、当社の中国市場向け販売も前年同期を上回る状況
  - 中国以外の地域における建設機械市場は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による市場の停滞により需要が大幅に減少するも、足元では回復基調が鮮明
- ロボット市場向け
  - 汎用ロボットは、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け案件の期ずれがあるものの、回復が早かった中国市場で一般産機向けおよび車体組立向けが堅調に推移
  - 半導体向けロボットは、半導体製造装置メーカーの設備投資増加により好調に推移しており、中長期的にも需要は着実に拡大していくと推測

# 市場概況 (2/2)

## 船舶海洋

- 環境規制強化に伴うガス燃料推進船需要が顕在化
- 一方で、新型コロナウイルスの感染拡大により新規商談案件が限られている上、韓国・中国造船所の低価格受注によって市場回復が遅れ、依然として厳しい状況

## モーターサイクル&エンジン

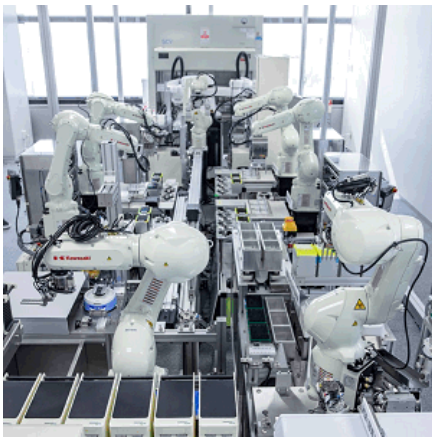
- 主要市場である欧米や東南アジアで新型コロナウイルスの感染が拡大し、市場が大きな影響を受けている
- 足元の小売販売は、米国市場はオフロードモデルに対する需要の高まり等により前年同期を上回る水準となり、また欧州市場も前年同期並みの水準まで回復
- 一方、新興国市場は依然として低迷し、前年同期を下回る水準が継続

## 車両

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内では鉄道関連投資計画の見直し、海外では工程の遅れや入札の延期・中止等が現実となりつつある
- 中長期的には、人口集中による大都市の混雑緩和や環境対策のための都市交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に比較的安定した成長が見込まれる

# プロジェクトトピックス

- ロボットによる自動PCR検査サービス事業は、開始に向けた準備が順調に進捗
- 昨年8月に製造販売承認を取得した国産初の手術支援ロボットシステム「hinotori™ サージカルロボットシステム」用トレーニングセンターを神戸・名古屋に開設（メディカロイド）
- 世界初の液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」は、日本近海での運航・各種試験を実施、来年度より日豪間輸送の技術実証試験を開始
- 世界初の液化水素荷役実証ターミナル（神戸）納入
- 世界最大級の「11,200m<sup>3</sup>球形液化水素貯蔵タンク」の基本設計を完了



自動PCR検査ロボットシステム



hinotori™サージカルロボットシステム



液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」

# 世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

## ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみによらずに投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。